

◎特集 1 / 開館 20 周年 生まれ変わる文学館 芸術の森に蛇笏・龍太の記念室誕生

◎特集 2 / 新県立図書館設計の概要

- 「県立高等学校整備基本構想」を策定しました
- 「目指せスペシャリスト ～スーパー専門高校～ (文部科学省)」事業の指定について
- 国語力向上実践事業の紹介
- シアトル美術館所蔵 日本・東洋美術名品展 美しきアジアの玉手箱
- エネルギーの現在を知り、未来を考える力をはぐくむ「エネルギー教育推進事業」
- ミュージアム甲斐・ネットワーク / 印傳博物館、やまなし伝統工芸館
- らくがき 甲斐市立竜王西小学校 二宮 直人教諭  
大月市立大月第一中学校 森 卓弥教諭
- 青少年の健やかな成長のために
- 学校紹介 / 南部町立万沢小学校・県立桂高等学校
- 総合教育センター情報 / 教員の資質向上を図るための研修
- 県立図書館 / 「レファレンスの道具箱 山梨の民話について調べる」
- 山梨の文化財 / 登録有形文化財 (建造物) 屋敷入沢第 7 号石堰堤
- 主な行事予定



特集1

開館二十周年

生まれ変わる文学館

芸術の森に蛇笏・龍太の記念室誕生

— 県立文学館 —

□ 新しい展示室へ

来春二月二日、文学館に「蛇笏・龍太記念室」が誕生します。笛吹市境川町に生まれ、生涯をこの地で送り山梨の自然・風土を十七文字の俳句に詠み続けた二人の俳人の魅力を鑑賞していただきます。

新しい記念室では、二人が過ごした境川の自宅に掲げられていた扁額「山廬」(高浜虚子筆、山の中の住まいの意味)をはじめ、代表句をしたためた直筆の軸や短冊、俳句や随筆の原稿、書簡、境川での日常の様子を映した写真や愛用の品(硯や釣竿など)も紹介します。

このほかにも今回のリニューアルにより、一葉の「たけくらべ」、芥川龍之介の「鼻」の原稿複製を直接手に取って朗読音声とともに鑑賞するコーナーを設けます。照明も工夫し、展示室全体が明るくなります。

さらに親しみやすく、魅力的な展示室となって生まれ変わる文学館へぜひ、お出かけください。

□ 飯田蛇笏

蛇笏は、一八八五(明治十八)年に生まれ、大正から昭和にかけて、日本の俳壇の第一線活躍しました。



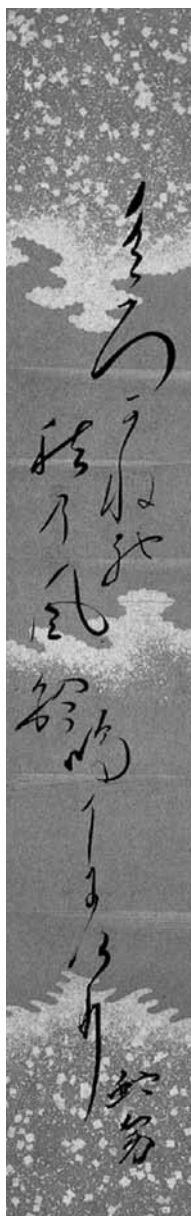
高浜虚子筆「山廬」扁額



飯田蛇笏 (いいだだこつ)  
1885 ~ 1962

少年時代から文学に親しみ、早稲田大学在学中に俳人高浜虚子に師事して才能を認められました。大学を中退し帰郷しますが、俳句への情熱はますます盛んとなり、大正時代に「芋の露連山影を正しうす」などの俳句が虚子に高く評価され、全国にその名が知られるようになります。蛇笏が主宰する雑誌「雲母」では、地元山梨ばかりでなく、全国の多くの俳人たちが指導を仰ぐようになります。

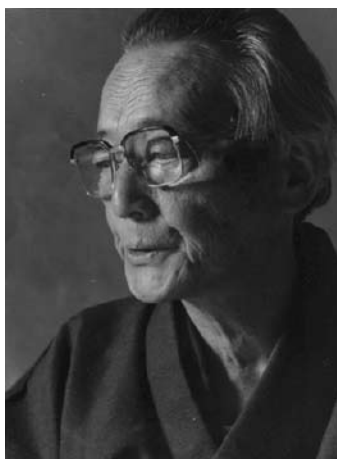
若山牧水、三好達治、岸田劉生など、歌人や詩人、画家たちも蛇笏の作風と人柄を慕って集まりました。中でも作家の芥川龍之介とは深い共感を寄せ合い、文通を重ねました。昭和二年に芥川が自殺した時、蛇笏は「たましひのたとへば秋のほたる哉」の追悼句を詠んでいます。



蛇笏の俳句から

芋の露連山影を正しうす  
をりとりてはらりとおもきすすきかな  
くろがねの秋の風鈴鳴りにけり  
おく霜を照る日しづかに忘れけり  
誰彼もあらず一天自尊の秋

口 飯田龍太



飯田龍太 (いいだりゅうた)  
1920 ~ 2007

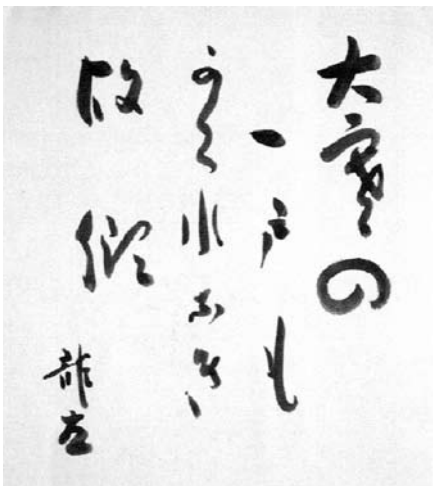
龍太は、一九二〇（大正九）年、蛇笏の四男として生まれました。三人の兄を病死、戦死で相次いで亡くし、飯田家を継ぎ、「雲母」を継承します。伝統派の若手俳人として戦後俳壇に鮮やかに登場し、以後昭和の俳壇をリードし続けました。父と同様に、生涯を故郷の境川村で過ごし、清新な抒情をもって郷土の自然・風土を詠みました。

一九九二（平成四）年、九百号まで続いた「雲

母」を終刊。俳句への厳しい姿勢が話題になりましたが、以後沈黙を守り、二〇〇七（平成十九）年二月二十五日、八十六年の生涯を終えました。  
井伏鱒二とは、小説と俳句というジャンルを超えて、四十年に及ぶ親愛と尊敬を寄せ合う交わりを結びました。ふたりは趣味の溪流釣りの同行者としてもしばしば、山梨の谷川を共に歩いています。

龍太の俳句から

春の鶯寄りわかれては高みつつ  
紺緋春月重く出でしかな  
大寒の一戸もかくれなき故郷  
一月の川一月の谷の中  
どの子にも涼しく風の吹く日かな



飯田龍太  
「大寒の一戸もかくれなき故郷」  
色紙

リニューアルオープンは

平成二十二年二月二日（火）です。

開館時間 午前九時〜午後五時  
（入館は午後四時三十分まで）

休館日 毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）、祝日の翌日

観覧料 一般 三二〇（二五〇）円  
大・高生二〇（一六〇）円  
中・小生一〇〇（八〇）円

（ ）内は二〇名以上の団体料金、

県内宿泊者割引料金

小・中・高等・特別支援学校生は土曜日無料

六五歳以上の方（健康保険証 等持参）は無料

障害者手帳をご持参の場合ご本人と介護の方一名が無料このほか、県立美術館とのお得な常設展共通券もあります。

十一月二十五日から二月一日までは、常設展示室がリニューアル工事のため閉室となります。ただし、十二月二日からは、常設展観覧料で次の展示が御覧いただけます。

■「収蔵名品展 直筆のメッセージ」

会期 平成二十二年十二月二（水）〜

平成二十二年二月二八日（日）

会場 企画展示室

## 新県立図書館設計の概要



外観イメージ：南西側（甲府駅北口方向）から

現在の県立図書館は昭和四十五年に建てられ、長年にわたり県民の皆さまに利用されてきました。しかし、老朽化が進み、また閲覧室や書庫が狭いことから、新たに県立図書館を整備することとなりました。

建設には、公共交通機関が集中し、早期に建設に着手できるJR甲府駅北口の県有地を活用します。県民の皆さまや専門家の意見を反映させた整備計画に基づき設計を進め、地上三階地下一階、延床面積約一万五百平方メートルの建物の概要がまとまりました。今年度中に設計を完成させ、来年度着工、平成二十四年秋に開館する予定です。

新県立図書館は、県民の学習・文化活動を支援する拠点として、また山梨の文化や情報を発信する拠点として、県民に親しまれ、県民とともに成長・発展することを目指します。

建物の設計では、誰でも気軽に立ち寄り利用できる、明るく親しみやすい図書館を基本に、平面や外観を構成しています。

## □ 施設の特徴

## ○ まちと一体感のある施設

甲府駅側の南面と西面にはガラスを多く用い、街路から館内の活動が見えるようにして、まちと一体感を持たせます。

○環境にやさしい施設

都道府県立図書館の中で最大規模（一〇五kW）の太陽光発電パネルを設置します。この太陽光発電パネルを設置した傾斜を利用して、北側のやわらかな光を館内に取り入れるハイサイドライト（高い位置に設けた窓からの採光）を導入します。また、壁面緑化を導入し、ヒートアイランド現象や館内の温度上昇を緩和します。さらに、南と東のガラス面には日除け（ルーバー）を設置し、日射を効率的に遮蔽します。

○使いやすい施設

ユニバーサルデザインに配慮し、わかりやすい案内表示や多目的トイレの設置など、ハードとソフトの両面で「どこでも、誰でも、自由に、使いやすい」図書館となるよう工夫をします。また、住基カードが新県立図書館の利用カードとして使えます。

□フロア紹介

《一階》

中央には、新聞や雑誌を閲覧するコーナーと、AV資料やインターネットが利用できる視聴覚コーナーを配置し、北側に配置する児童コーナーは「子ども読書支援センター」としての役割を担います。

また、企画展やギャラリーなどに利用できる多目的展示会場や、グループ学習などに利用できる大小の交流ルームを設けます。

《二階》

幅広い分野の図書や、山梨に関係する資料を集めたメインの閲覧エリアです。

位置図



※詳細は新図書館建設室ホームページでご覧いただけます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/toshokan-ken/documents/kihonsekkei/kihonsekkei-top.html>

読書や資料調査を行うための閲覧室を設けます。調べものや資料探しは、レファレンスサービスでお手伝いします。また、上映会や講演会などに利用できる約二百席（可動式）の交流ホールを設けます。

《三階》

静かで落ち着いた雰囲気の中で、じっくり調査・研究を行うための閲覧室を設置します。

また、テラスでゆったり読書を楽しむこともできます。

《地下》

収蔵能力百万冊のうち九十五万冊を収蔵する閉架書庫は、温度や湿度の影響が少ない地下に設置し、県民の財産である図書館資料を保存します。

# 「県立高等学校整備基本構想」を策定しました

## — 新しい学校づくり推進室 —

県教育委員会では、生徒の多様化、生徒数の更なる減少など、本県の高校教育を取り巻く環境が大きく変化している状況を踏まえ、今後の県立高校の在り方や新しい高校づくりの基本的な指針として、平成二十一年十月、「県立高等学校整備基本構想」を策定しました。

り、全体としての活性化を図ります。

### 〔定時制・通信制〕

定時制全体の将来を見通した再編整備を検討します。特に、中央高等学校については、三部制の高校に改編し、教育環境の整備や充実を図ります。

### 〔中高一貫教育〕

本県の目指す方向性を明確にし、設置の必要性を基本から洗い直した上で、設置場所、設置時期、設置形態等について早期に検討を進めます。

## □対象期間

平成二十二年度から平成三十一年度

## □主要内容

### ○魅力ある高校づくり

〔普通科〕

普通科を設置する高校の特色づくりとして、今後、単位制、コース制、専門教育学科等の制度を活用していきます。

〔専門学科〕

社会の変化に対応した学科再編等を推進するとともに、地域産業からの人材要請に応えうる施設や設備の充実、基礎や基本の習熟を図ります。

〔総合学科〕

これまでの設置方法に加え、総合学科のメリツトを普通科の改編に活用し、「普通科目を基軸にした総合学科」の設置について検討します。

〔総合制高校〕

それぞれの学科の特色づくりを進めることによ

### ○活力ある高校づくり

〔学校の適正規模〕

活力ある高校づくりに欠かせない教育的機能を確保する観点から、学校の適正規模は「四十人学級で一学年六学級を中心に四〜八学級」とします。

〔学校の再編整備〕

学校の適正規模を確保するために、統合再編だけでなく募集停止や分校化も含めた再編整備についても検討します。

また、再編整備に当たっては、通学の際の時間的・経済的状況や地域の実情にも配慮しつつ、地域の意見も十分に聴き取る中で、次に示すような基本的な考え方に基づいて検討を進めていきます。

### 【再編整備に関する基本的な考え方】

(1) 適正規模に満たない学校及び本構想期間内に適正規模を下回ることが見込まれる学校を再編整

備の対象校とします。

(2) 適正規模に満たない場合においても、生徒の通学実態、地域の実情等から再編整備が困難なときは、対象校から除外します。

ただし、一学年で二学級に満たない場合は再編整備の対象校とします。

### ○地域との連携

〔キャリア教育の推進〕

生徒一人ひとりが、自分にとってふさわしい進路を主体的に選択し、社会人・職業人として自己実現を図るために必要な望ましい勤労観・職業観を育成できるよう、中学校・高校・大学の連携を強化します。

〔地域産業を支える人材育成〕

生徒が職業に関する専門的な知識・技能を身に付け、地域産業の担い手となるよう、県内の上級教育機関や地域産業との連携を一層推進します。

今後は、本県の高校教育が活力に満ち、高校が生徒にとって魅力あるものとなるよう、本構想に基づき、施策の展開を図っていきます。

本県高校教育の振興のため、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

※「県立高等学校整備基本構想」は、県のホームページでご覧いただけます。

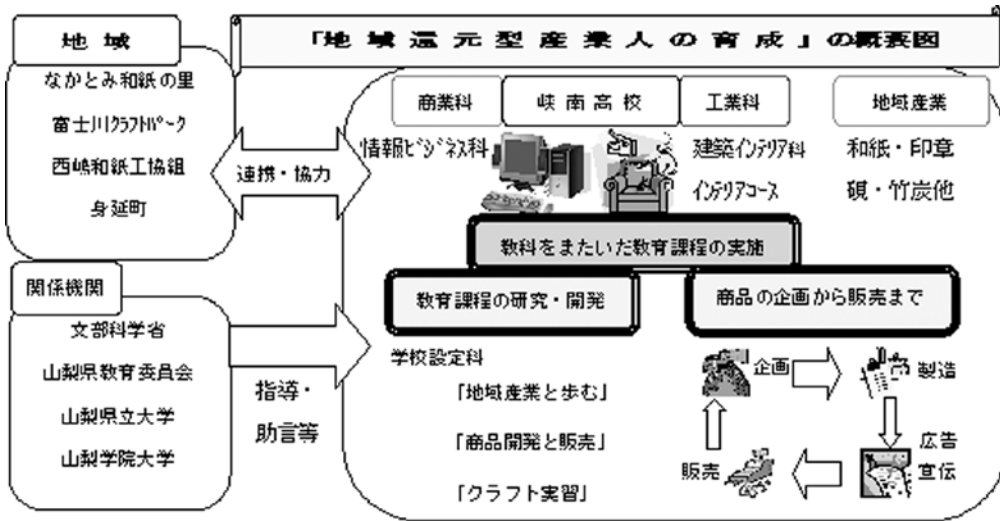
<http://www.pref.yamanashi.jp/gakkosui/koukoukaikaku/shiryout.html>



「目指せスペシャリスト ～スーパー専門高校～（文部科学省）」事業の指定について  
 ー 県立峡南高等学校 ー

【事業の概要】

文部科学省では、平成十五年度から、「将来のスペシャリスト」の育成を目的に職業教育を主とする学科に対し、研究指定を行っています。本年



度、全国から十校が指定されたなかの1校として本校が山梨県で初めて指定されましたので、その内容を紹介します。

【研究の特徴】

本校が所在する峡南地区には、和紙・竹炭・硯・印章などの伝統的地域産業がありますが、少子高齢化や若年労働者の流出が著しいため、地域産業の地盤沈下や後継者不足が懸念されています。

一方、中部横断道の整備・静岡空港の開港により、全国各地をはじめ、アジア各国・欧米との交流や、地域産業に関連した起業家・経営者の育成も期待されています。

こうした背景から、この研究では四百有余年の長い伝統があり、全国の書道家や書道愛好家に珍重・愛用されている「西嶋和紙」に着目しました。

本校商業科「情報ビジネス科」と工業科「建築インテリア科」が連携・協力し、和紙を使用したインテリア製品の商品開発について、企画から販売までのプロセスを実践・研究しています。科目や教育課程の研究・開発によって、起業や職業意識に関する知識や技能を向上させ、地域産業に関する体験学習や市場原理を実体験することで、地域産業に関連した経営者・起業家の育成と地域に貢献できる人材の育成を目指します。

【研究の目的】

この研究では、地域社会と連携し、地域産業の活性化に結びつくような商品開発と、地域産業に関連した知識と技能を持った「ものづくり・人づくり」のできる将来の技術者・経営者の育成を目

指します。工業や商業の教科を超えた連携と各々の特徴を活かし、マーケティング・リサーチを適宜行うことで社会のニーズや市場の動向をつかみ、和紙を使用したインテリア製品を企画し、新商品を製作するとともに、情報ビジネス科で制作した地域活性化ホームページ『よってけし身延』などを活用して広告宣伝・販売を行います。これらを通して、和紙に限らず地域産業の広告宣伝をし、社会のニーズや市場の動向にリアルタイムで対応できる生産から販売までのシステム作りを行い、地域活性化に貢献したいと考えています。

【これからの研究の取組】

この研究は、七月にスタートしたばかりです。地域や関連機関の指導・協力を得ながら、三年間の取組により、地域産業に関連した経営者・起業家育成のモデルプランの確立と、地域貢献できる人材育成を進め、身延・峡南地区のキャリア教育及び起業家教育の拠点校を目指します。



地域活性化ホームページ

# 国語力向上実践事業の紹介

## — 高校教育課 —

### □ 事業の概略

この事業は、「読むこと・書くこと」「話すこと・聞くこと」の指導事例集を作成し、研究指定校で指導事例の検証を行った、「国語力育成推進事業」(平成十六年度～十八年度)を継承するものであり、検証成果をもとに修正した指導事例集を活用して、各学校で実践的かつ全校的な国語力の向上の取組みを進めることで、本県高校生の国語力を確実に向上させることを目的としています。

### □ 研修会・報告会から

各学校では、それぞれの学校の実態に即し、特色のある実践を展開しています。

平成十九年度には、**葦崎、桂、富士河口湖、塩山、谷村工業、都留、甲府第一**の、二十年度には、**上野原、白根、石和、山梨、中央、甲府工業**の各高等学校が実践報告を行いました。

中央高等学校の発表は、生活体験発表大会の指導を通して取り組まれた内容で、事業の目標(仮説)を設定し、遂行に関しての諸要素を考慮した周到な計画に基づき実践されたものでした。

本年二月の研修会においては、筑波大学名誉教授の**鳴島甫氏**を講師に、「確かな国語力の育成について～新学習指導要領との関係から～」と題し、タイムリーな内容の講演が行われました。

また、九月には、**甲府東、葦崎工業**の二校から、教育課程に位置付けた、創意工夫のある取組が紹介されました。

なお、各年度秋の中間報告会においては、文化庁主催の「東日本地区国語問題研究協議会」、独

立行政法人教員研修センター主催の「国語力向上指導者養成研修」の参加報告も併せて行われ、参加者の研鑽の場ともなっています。



中央高等学校の発表

### □ 「言語活動の充実」へ

平成十六年の文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」で、国語の果たす役割とその重要性が提唱されました。

新しい学習指導要領においても、教育内容の主な改善事項に、「言語活動の充実」が盛り込まれており、国語をはじめ各教科等で批評、論述、討論などの学習を充実させることが求められています。

本県においても、本年二月策定の「やまなしの

教育振興プラン」で、「思考力・判断力・表現力等の育成」とともに、「国語力等の向上」を取り上げ、「山梨県学校教育指導重点(高等学校)にも、「言語活動や読書活動を充実させ、教育活動全体を通じて国語力の向上に努める。」としています。



鳴島教授の講演

### □ まとめ

今年度は事業の集大成の年となり、中間報告書も最終年度を意識したものになっています。来る二月四日には、外部の識者による講演会と、五校の実践報告からなる総括の研修会・報告会を予定しています。年度末には、これまでの取組を総合教育センターのホームページ上で公開するため、その準備も進めています。



シアトル美術館所蔵 日本・東洋美術名品展 美しきアジアの玉手箱

— 県立美術館 —

シアトル美術館は、アメリカの西北端に位置するシアトルに、地質学者のリチャード・フラーと母マーガレットによって一九九三年に創設されました。約七千件の日本・東洋美術コレクションを誇り、本展では、その中から約百件の優品をご紹介します。同館のまとまったコレクションがアメリカ国外で公開されるのは初めてのことです。

充実したコレクションは創設者のフラーとフラーのもとで副館長を勤めたシャーマン・リーによって形成され、二人が収集した優れた作品は、日本にあれば重要文化財に指定されるようなものも多数含まれています。

今回出品される作品の中で特に優れたものを紹介します。日本美術では鎌倉時代の「地獄草紙断簡」や「駿牛図」、漆工芸の「浦島蒔絵手箱」などの名高い作品が本展に里帰り出品されます。また、俵屋宗達が金銀泥で鹿を描き、本阿弥光悦が新古今集の和歌を書写した「鹿下絵和歌巻」が展示されます。これは、和歌と画の見事な調和をみることできるもので、もとは二十二メートルの巻物が切

断され、シアトル美術館に後半部分が分断されることなく伝えられています。さらに、山梨県勝沼町の甲斐万福寺旧蔵の「源誓上人絵伝」が出品されます。現存する作品は二幅でシアトル美術館のほか東京藝術大学に所蔵されており、本展では両方とも出品されますので、それぞれを対比しながらご覧いただくことができます。また、江戸時代の「鳥図」や「竹に芥子図」など、卓抜した意匠性が目を引く作品も展示されます。

中国の古代から清代にかけての充実した陶磁器コレクションからも、青銅器や漆器、金銀器、そして元、明、清代の書画が展示されます。韓国やアジア諸国の作品も、それぞれの国や地域の特徴を物語る多彩な作品が出品されます。まさに「美しきアジアの玉手箱」といえる日本・東洋美術の名品の数々をお楽しみください。

展覧会期中には、本展監修者による記念講演会のほか、新春館長トーク、映画会、学芸員のギャラリートークなどを開催します。

開催期間 十二月二十三日（水）～

二月二十八日（日）

開館時間 午前九時～午後五時

（入館は午後四時三十分まで）



鳥図 六曲一双 [右隻] 江戸時代 17世紀前半

Photo: Seiji Shirono, National Institute for Cultural Properties, Tokyo

# エネルギーの現在を知り、未来を考える力をはぐくむ「エネルギー教育推進事業」

— 高校教育課 —

本県では、国の「原子力・エネルギーに関する教育支援事業交付金」を活用した「エネルギー教育推進事業」を平成十六年度から実施しています。

この事業は一人ひとりがエネルギーや原子力について理解を深め、自ら考え判断する力を身につけるための環境整備を図る観点から、各小中学校、高等学校がこれに係る取組みを実施することを支援する目的で実施しています。

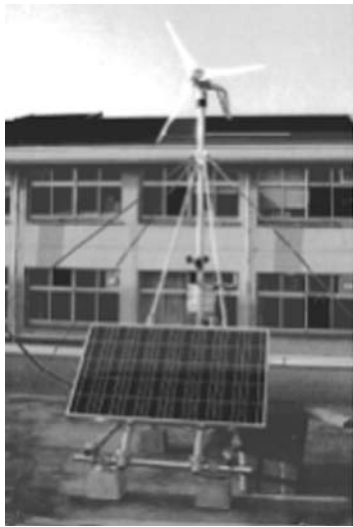
表：エネルギー教育推進事業の概要

	補助金	交付金		義務教育課	高校教育課
		教材購入	見学研修		
16年度	山梨市	5校	3校	—	—
17年度	北杜市	6校	3校	—	教員研修
18年度	山梨市	3校	4校	—	教員研修
19年度	—	2校	8校	教材購入 教材作成	教材購入
20年度	—	4校	8校	教材購入 教材作成	教員研修

これまで取り組んできた具体的な内容は表に示

しましたが、市町村への補助金交付事業、県立学校への交付金交付事業、そして高校教育課と義務教育課が主催する教員研修事業や教材作成事業などを行っています。

平成十八年度までの三年間に公募で行われた補助金交付事業は、中学校三校で小型風力発電



ハイブリット発電システム

装置や風力・太陽光のハイブリッド発電システムの設置、燃料電池学習教材の整備が行われました。生徒が新エネルギーを身近に感じ、そのしくみを学習する上で、大きな役割を果たしています。

平成十九年度からは、さらに多くの児童・生徒を対象とすることを目的として、エネルギー教育の教材の作成・配布と、購入した教材を教育事務所に置き、小中学校へ貸し出しを行う事業へ変更となりました。

また、交付金交付事業では、各高校からの申請に基づき、ペルチェ素子のような新素材や原子力に関する教材の購入、近隣の発電所や科学館等への見学研修の実施を支援しています。

特に、当初三校だった見学研修は、現在八校が実施しており、科学館等が中心だった研修先も、黒部ダムや核融合研究所等へと広がりを見せています。教材を活用した授業や体験は、生徒がエネ



授業や研修での実習風景



ルギーに関する学習内容を、より深めるのに役立つています。

一方、当課では必要に応じて教員研修を実施しています。昨年度は、発電所で最新の発電技術について、電力中央研究所で発電の基本原理や放射線の利用についての研修を行いました。これらの研修成果は、日頃の授業の中で生徒に還元されています。

「エネルギー」は、私たちの生活にも深く関わり、今回の学習指導要領改訂においても重要視されており、

資源には限りがあり、今後私たちは「エネルギー問題」と真剣に向き合う必要があります。このためエネルギー教育は必要不可欠です。今後もこの事業を通して、本県におけるエネルギー教育を推進していきたいと考えています。

## ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設の紹介をします。

### 印傳博物館 (甲府市)

当館は平成11年10月に印傳屋本店2階に開設され、10周年を迎えました。主な収蔵品は古典の技法を伝える印傳の作品を中心に鹿革、その他の関連工芸品及び道具や参考資料等を収蔵しております。これらの資料は年間4回程度、技法・用途・模様等のテーマに従って展示替えされて、陳列しています。

甲府駅からも近いため、山梨の伝統的工芸品や地域産業、職場見学等に関する校外学習に御来館頂いております。

なお、製作工程の見学を希望する場合は、甲府市川田町の印傳屋本社工場に御連絡ください。



博物館外観

**住所** 甲府市中央3-11-15  
印傳屋本店2階  
**電話** 055-233-1100  
055-220-1621 (音声案内)  
**担当者** 出澤・田所  
**休館日** 年末年始・展示替え期間  
**入館料** 大人200円・小中学生100円  
(入館料の免除についてHPを参照)  
**駐車場** 無料(普通車20台、大型バス1台)  
**URL** <http://www.inden-museum.jp>



山市印煙革羽織

### やまなし伝統工芸館 (山梨伝統産業会館) (笛吹市)

当館は、水晶貴石細工、甲州印伝、甲州手彫り印章をはじめとする山梨県内の伝統的工芸品12品目の歴史、原材料、制作工程及び作品などを展示しています。

また、伝統工芸を活かした小・中学校向けの体験学習プログラムも実施しています。

体験内容(要予約)

- ・貴石画作り : 定員150名 料金600円～
- ・オリジナル万華鏡作り : 定員150名 料金1500円
- ・オリジナルストラップ作り : 定員100名 料金800円～

\*所要時間はいずれも1時間

**住所** 笛吹市石和町四日市場1566  
**電話番号** 055-263-6741  
**FAX** 055-263-6742  
**担当者** 中山  
**休館日** 月曜日(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日、年末年始  
**入館料** 一般300円、大高生250円、小中学生100円  
団体(20名以上)は50円割引(免除制度有り)  
**駐車場** 無料(普通50台、バス10台)  
**URL** <http://www2.odn.ne.jp/crafts-yamanashi>



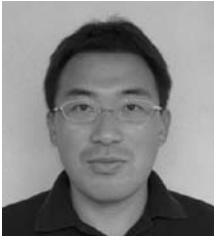
伝統工芸館外観



体験学習プログラム



貴石画作り



らくがき



「某所ニテ」  
二宮 直人

「テーマはサバイバル」  
森 卓弥

甲府市内某所―。ひと月に数回、日付が変わる頃、ちょっとした賑わいをみせる。  
午後11時30分過ぎ、その暗さに昼間の様子とは全く違うことを改めて感じさせられる。たいていの場合、私が車を降りてから目指す場所には先客が座っている。「こんばんは」「二宮です」「あっ、なんだ、別に無理して来なくてもいいのに」「いやあ、まあ、お祭りみたいなもんですから」等々、挨拶とたあいもない会話が続く。その後、会話の内容は少しずつ焦点化される。それは、前回のこと、その後の練習を見に行っただけの様子や感想などである。時には同じ目的で集まっている人同士で話に花が咲く。人それぞれに感じ方が違う部分もあるが、そこにある「想い」はきっと同じだ。ある種、至福の時を過ごしている感がある。  
日付が変わった頃、それぞれシートやテープで場所を確保する。駐車場では車の発進する音が聞こえ始める。われわれも一時帰路につく。そして数時間後。すっかり明るくなったその場所でご機嫌な人たちと再び顔を合わせる。青いユニフォームを身に纏った人々が波のように押し寄せてくる。今年はJ1復帰を目指し、熱い応援の日々が続く。  
ここは―小瀬スポーツ公園陸上競技場―。色鮮やかな緑と目映いばかりの青が交錯する場所。サッカーの「聖地」、[劇場]とも形容される場所。やがて12月の声を聞くと『お祭り』も中断してしまう。しかし、来年の3月のシーズン開幕には、その鮮やかさも目映さもさらに増して、私たちを迎えてくれることだろう。来年はどこの競技場に青い旗がひるがえるのか、今から不安でもあり、楽しみでもある。  
(甲斐市立竜王西小学校)

「ハア、ハア、もう歩けない！」そんな思いで、10月中旬に校長先生と学年職員が道志村の菜畑山と今倉山に登った。受け持つ2学年の宿泊学習の下見である。下見での自分たちのつらさを考えたとき、このコースの登山は難しい気もしたが、宿泊学習の隠れたテーマは「サバイバル」。いろいろ相談した結果、現代っ子にはこのくらいの試練は必要と言うことになり、登山も含めて計画通り実施することにした。宿泊学習の当日、そば打ち体験、魚釣り体験の後、釣った魚を自分たちで裁き、学校で穫れた米と釣った魚、そして、考えたメニューでの夕食となった。火おこしから始まり、調理終了まで、先生方の手を借りることなく、「自分たちで何とかする」という3時間の格闘の結果、何とか全員夕食にありつけた。夕食後は近くの温泉で、露天風呂に芋を洗うようにつかっている男子全員の光景は滑稽でもあり、ほのぼのさせられた。次の日の朝食は、缶詰とご飯、昼食のおにぎりも自分たちで作り、登山に挑んだ。7時間の行程であったが、予想に反し軽々とこなしてしまう子供たちのパワーには驚かされた。  
今回の宿泊学習を通して、子どもたちの楽しそうな笑顔と、遅しさを、自主的な行動、友達への気遣いなど学級の中では見ることでできない表情を見ることができた。下見の苦労や今回の宿泊学習の計画を立てたことが有意義であったと実感できる1日であった。  
(大月市立大月第一中学校)

～青少年の健やかな成長のために～  
**ご存じですか？青少年保護育成条例**  
社会教育課

近年、青少年が被害者となる事件が多発しています。  
山梨県青少年保護育成条例は、青少年を取り巻く望ましくない社会環境から青少年を保護し、次代を担う青少年の健やかな育成を図るために制定されました。  
青少年が心身ともに健やかに成長することは県民すべての願いであり、責務でもあります。事業者はもちろんのこと、保護者・地域住民・学校・青少年育成団体をはじめ全ての県民が一丸となって、青少年を見守り、健やかにはぐくんでいきましょう。  
**■深夜外出の制限**  
○保護者は特別な事情がなければ、深夜（午後11時から午前4時まで）青少年を外出させてはなりません。

○だれでも、正当な理由なく、深夜に青少年を連れ出すことは禁じられています。  
○コンビニや飲食店など深夜営業を行う事業者は、深夜、施設内にいる青少年に帰宅を促すよう努めなければなりません。  
**■深夜の入場禁止**  
○カラオケボックス、インターネットカフェ、マンガ喫茶などの経営者や従業員が、深夜に青少年を当該施設に入場させることを禁じています。  
※これらに違反すると罰金が課せられることがあります。  
※この条例で、青少年とは18歳に満たない者をいいます。

## 明るく元気なひいらぎっ子 ～ひいらぎとともに～

南部町立万沢小学校

本校は、静岡県との県境の町、南部町の最南端に位置している全校児童 35 名の小規模校です。

校庭の西側には、樹齢約 300 年の「ヒイラギモクセイ」の木が立っており、学校のシンボルツリーとして、地域の方々や子どもたちに親しまれています。

子どもたちは、木にちなみ、自分たちを「ひいらぎっ子」と名付け、行事や児童会の活動などにも「ひいらぎ」の名前を入れ、この木とともに学校生活を送っています。

そんな学校生活の中で最も大きな行事と言えるのが「ひいらぎ祭」です。この祭りは、今年で 27 回目を

迎える学芸発表会です。合唱や合奏、各学年の演劇発表、児童会の取組みの紹介などを、学校と地域が一体となって行っています。

最近では、児童会が中心になり「ひいらぎを守ろうキャンペーン」を立ち上げ、ひいらぎ祭で地域の方にもアルミ缶回収を呼びかけ、樹勢の弱まってきた木を救うためにたくさんの方に協力をしていただいています。

本校はこれからも、ひいらぎとともに歩んでいきたいと思えます。



校庭のひいらぎの木



ひいらぎ祭演劇「時をこえる想い」



## 桂ってハートなんだ！

県立桂高等学校

桂の教育は、「心」をテーマにしています。桂の木の葉がハートのかたちをしていることから「桂ってハートなんだ！」が合い言葉です。今回は「心」をテーマに実践している様々な教育活動のなかから、代表的なものを紹介します。

### ○心を耕す読み聞かせの時間「MIND」

水曜日の朝 8 時 35 分、SHR の時間がはじまると、音楽とともに心に響く文章の朗読がはじまります。先生方や生徒が選んだ様々な分野からの文章を図書委員が朗読します。



「MIND」朗読をする図書委員

### ○出前授業

地域の中学校との交流や連携を深めるために、都留市内と西桂町の中学校へ出前授業を行っています。心を込めたサービスを心がけています。

### ○小・中学生の高校見学

小・中学生を桂高校に招いて、高校生活を体験してもらおう機会としています。小学校の児童たちと触れあう本校生徒の笑顔や、高校生に混じって一緒に勉強している児童の姿には心温まる思いがします。



出前授業（都留第二中学校）



小学生の高校見学

## 教員の資質向上を図るための研修

— 総合教育センター教育指導部 —

新しい学習指導要領のもとで学校教育には、知識基盤社会や国際社会に対応していくために必要な基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれを活用する力の育成をはじめ、社会的規範意識や公共の精神の育成、キャリア教育、学校内外における体験的な活動の工夫など、多様な教育活動の取り組みが求められています。

総合教育センターでは、これらの学校教育にかかわる今日的な課題を踏まえ、教職員の資質の向上と意識改革を図り、児童生徒に「確かな学力」などの「生きる力」をはぐくめるよう、多様な研修を実施しています。教育経営や経年などの必修研修と教科等や教育課題などの希望研修に分類し、管理職、主任等の研修や五年経験者、十年経験者、教科等の研修、教育相談や特別支援教育、情報教育にかかわる延べ三百三十五の研修会を実施しています。

研修は、大学の教授など、専門的な立場の講師による講座と学校等で優れた取組をしている教員の報告などを中心とした実践的な講座などを行い、有意義なものとなるよう企画しています。本年度も夏季休業期間を中心に行い、受講者は、延べ人数で約一万三千名にもなりました。

その中で、今年度実施した主な研修を紹介いたします。

### ○ 新任道徳主任（道徳教育推進教師）研修会

新任道徳主任及び道徳主任を対象とした研修会です。道徳主任の役割と実務はもとより、道徳授業演習、「心のノート」を活用した道徳教育の展開、道徳指導案の作成演習など四日間及び研修です。講師には、県外から優れた実践をしている教員や、「詩の朗読と道徳」について講義をいただいた金田賢一氏などをお招きしました。受講者も八十二名となり道徳教育の基本的事項及び指導上の諸問題、道徳教育推進体制の充実についての理解を深めるとともに、実践的指導力の向上を図ることができました。

### ○ 新聞の教育利用研修会

児童生徒のメディア・リテラシーを育成するために、新聞の教育利用の在り方やその実践的な取組方法等について理解を深め、教師の指導力向上に資することを目的に、本年度新設された研修です。大学教授や新聞記者、実践経験を持つ教員が講師となり、受講者に大変好評でした。次年度も引き続き実施する予定です。

### ○ 外部共催研修

総合教育センターと科学館や森林総合研究所、環境科学研究所、博物館等外部機関と共催で十一の研修を実施しています。各機関は教員のための研修プログラムを作成し、実習を通じた体験的な研修を実施しています。来年度は考古博物館とも共催で実施しますのでより多くの教員に参加していただきたいと思えます。

児童生徒や保護者、地域住民から信頼される学校づくりをするため、教員の研修の重要性が叫ばれています。総合教育センターでは、資質の向上を図り、専門性を高めるために、より質の高い研修を提供できるように努めて参ります。



研修会の様子



## 『レファレンスの道具箱\*\*\*テーマ別調べ方ガイド\*\*\*』

# ◇山梨の民話について調べる◇

山梨県立図書館



### 参考図書で調べる

『民話・昔話全情報 2000-2007』（日外アソシエーツ／編集・発行 2008）  
国内で刊行された民話・昔話関連書を地域別に配列した図書目録です。  
事項名索引があります。

『民話・昔話集内容総覧』（日外アソシエーツ／編集・発行 2003）  
国内で刊行された民話・昔話の全集・叢書類の内容細目を県別に配列しています。  
作品名索引があります。



### 山梨県全域から調べる

『日本昔話通観 第12巻 山梨・長野』（同朋舎出版／編集・発行 1981）  
近世以前から伝承した昔話の索引があります。

『山梨県の民話 笛吹権三郎と笛吹川ほか』（日本児童文学者協会／編 偕成社 1982）  
巻末に山梨県の民話地図と各民話の解説があります。山や峠にまつわる話、川・湖・泉にまつわる話などテーマ別です。

『読みがたり山梨のむかし話』（山梨国語教育研究会／編 日本標準 2004）  
小・中学校教諭が採話し、もとの話の語り口を生かして編集された1975年発行の改訂版です。めでたしめでたしの話、こわい話などに分けられています。

『山梨県の民話と伝説』（土橋里木／著 有峰書店 1979）  
山梨の民話・伝説の比較論評、考察が述べられています。巻末索引があります。



### 地域別に調べる

『ふるさとやまなしの民話』（山梨県連合婦人会／編集・発行 1989）  
地域別に配列されているので目次で地域毎に一覧できます。

『甲斐路ふるさとの民話と民謡』（山梨県／編集 山梨日日新聞社 1991）  
こちらも地域別に配列されています。

『長坂のむかし話』（長坂町教育委員会／編集 長坂町役場 2000）

『みさかの民話』（ブランコの会／編・発行 1985）

『ふるさと・山梨市 万葉浪漫カルタと民話』（山梨市民まつり実行委員会／編集 山梨 ふるさと文庫 1993）

『ふるさと中富のはなし』（ふるさと中富のはなし編集委員会／編集 中富町教育委員会 2003）9）

『ふじごこふるさとむかしばなし 第1集』（富士五湖広域行政事務組合 1994）

☆☆☆

☆☆☆

### 🌐 インターネットで調べる 🌐

山梨の民話を紹介したサイトがあります。

「うちの甲州弁研究所 山梨の民話」

<http://Kosyu-dialect.hp.infoseek.co.jp/minwaindex.htm>

☆☆☆

☆☆☆

※今回紹介した資料以外にも関連資料がございます。ぜひご利用ください。

# 山梨の文化財

## 登録有形文化財（建造物）・種別：土木構造物 屋敷入沢第七号石堰堤

（平成二十一年八月七日登録）

屋敷入沢第七号石堰堤は、富士川水系金川の支流、屋敷入沢の最下流部にある。屋敷入沢には、明治末期から大正初期にかけて造られた①空石積みの砂防堰堤が多数分布しているが、この第七号石堰堤は、その中の基幹的砂防施設となっている。

竣工は、明治四十三年。堤防は、長さ六十五・五m、高さ六・四m、水通しの形は逆台形で、下流側に導水のための石垣、水叩を有しており、屋敷入沢にある石積みの堤防としては最大規模のものである。

石積形式は、②谷積で、割石を使用して石積の平均的な寸法は、八十cm×三十cmとなっている。



堤防本体が緩勾配となっているため、川の流れが安定し、地すべりによる土砂災害から集落を守るなど、今もなお、砂防施設としての機能を發揮している。

水通し下流の法面の流水部で石材の表面が摩耗しているものの保存状態は良好であることから、登録有形文化財の登録基準のうち、「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当するとして登録された。

① 空石積とは、石と石をじょうずに組み合わせ、コンクリートなどで固めずに積み上げるもので、高度な技術を要するものといわれている。例としては、城郭の石垣などがある。

② 谷積とは、石積み石の接合部が水平面と四十五度程度に傾くように積み積み方をいう。

## 主な行事予定

### 県立美術館

#### 特別展

「美しいアジアの玉手箱  
シアトル美術館所蔵日本・東洋美術名品展」  
12/23～2/28

### 県立考古学博物館

「甲府市内の出土品Ⅱ  
～表門郷ものがたり～」  
12/12～1/31

企画展  
「第7回わたしたちの研究室」展示会  
2/9～3/7

### 県立博物館

シンボル展  
「神か？ 獣か？ 神降臨」  
12/9～1/25

企画展  
「世界遺産 アンコールワット展  
アジアの大地に咲いた神々の宇宙」  
2/4～3/22

### 県立文学館

特設展  
「文学館開館20周年記念展示  
「収蔵名品展 直筆のメッセージ」  
12/2～2/28

常設展示室リニューアルオープン  
「H.C. アンデルセン人魚のお姫さま」  
2/2

## 表紙を飾る



作品タイトル

「ごちそうがいっぱい」

5月に野原で草花遊びをしたり、学校や家のまわりの花や草、木の葉を使ってごちそうを作ったりしました。

わたしは、家の庭や畑につつじやスミレや菜の花が咲いていたので、いっぱい集めて、カラフルで豪華でおいしそうになるように工夫しました。

「えいよういっぱいべんとう」とサラダとデザートもできました。

おいしそうにできてうれしかったです。

指導者 坂本千津子 教諭

## 「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。

アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html